

圏域名	但馬圏域
会 議	地域医療構想調整会議 平成 29 年度 第 4 回
日 時	平成 30 年 1 月 25 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00
場 所	公立豊岡病院 2 階 講堂
議 長	田中 洋 部会長 (豊岡市医師会長)
出席者	欠席：迫田部会員 代理人が出席：浜辺部会員、砂治部会員、小畑部会員、森本部会員 以外は、別紙構成員名簿のとおり本人出席 ※但馬圏域医療機関等連絡会議と合同開催
議事次第概要	(議事) 第 7 次兵庫県保健医療計画の圏域計画の改定について (1) 第 7 次兵庫県保健医療計画(県計画)改定の進捗状況について (2) 但馬圏域重点推進方策の修正(案)について (3) 県養成医師制度等について (4) 意見交換
内 容	<p>〈議事〉</p> <p>◇議事(1)(2)(3)について、事務局より資料に基づき説明後、但馬圏域重点推進方策(案)を中心に意見交換を行った。</p> <p>◇会議意見を踏まえ、但馬圏域重点推進方策(案)を加筆・修正し、田中部会長に内容の確認を受けた後、2月末に現時点の事務局(案)として医務課に提出することで、了承を得た。</p> <p>◇また、但馬圏域重点推進方策の最終成案については、5月開催予定の医療部会で最終議論をし、6月末に医務課に提出する形で進めることを報告した。</p> <p>【主な意見・質疑】 (部会員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤医の不足については、圏域だけではもうどうにも出来ない。圏域を越えた施策が是非とも必要だ。 ・養成医のシステムが 5 年～10 年もすると充実すると思うが、病院は、5 年間持ちこたえられない状況が現にある。当面を何とかしてほしいので、地域の計画の中に反映していただきたい。 ・個別の病院名で比較する記載が不適切であれば、兵庫県内の地域格差という表現でもよいので、但馬の医師不足の現状が県にわかってもらえるように記載して欲しい。 ・兵庫県の常勤医の南北格差を解消するため、県立尼崎総合医療

センターとのローテート制の導入という提言を記載して欲しい。

- ・資料に人口比の数字が出てくるが、但馬は非常にエリアが広いので、アクセスを考慮した施策判断が必要と考える。
- ・但馬の産科の集約化は、20年後は考えられるが、今回の計画では集約化は難しい。今の時点では補強や充実という段階だと思う。

(事務局)

- ・医師不足については、圏域の重点的な取組の医療従事者の確保の中で、意見をいただき記載しているので理解いただきたい。また、状況は県医務課にも伝えている。
- ・アクセスの議論は、我々も同様に考えている。
- ・県は、但馬圏域の厳しさを考慮して県養成師の大部分を但馬に派遣している。他圏域からの派遣要望がある中で但馬に派遣をしているので、県の但馬への配慮をご理解いただきたい。
- ・養成医が10年目以降に但馬に残るには、但馬での勤務期間中にどういう経験をし、但馬が良いところだと感じる方策がよいと思う。
- ・総合診療科、内科は分散型でも症例数はある。それ以外の整形外科、産婦人科などは、医師養成という観点からも、一定数の確保、質の保証という点で集約化し、但馬圏域全体で診療を保証する仕組みが重要と考える。
- ・心配される医師確保の現状については、全県計画に記載され、その中で各圏域の取組計画も記載される。

(部会員)

- ・この計画に記載できない提案は、この会議から県に対して要望を出すことは可能か。

(事務局)

- ・医療部会で要望することは、組織として違うと思う。議論の場として医療部会で議論することは構わないが、要望書については、公立病院なりの合意を得られる集まりの中で提出していただいたらよい。
- ・5月にも会議を開催する予定。その場を活用するのは構わない。

(連絡会議構成員)

- ・地方で医師不足を解消するには、次の4つを考えなければならない。
 - ①若手医師の確保
 - ②定着した指導医の確保
 - ③専門医プログラムの存在

④これらを維持、発展するためのモチベーション

- ・行政、住民を含めた但馬全体での支援、但馬でのおもしろい研究等が、モチベーションの維持と但馬に興味を持ってもらうことになる。
- ・今後、我々が引退し養成医師だけになったとき、地域の病院を維持できるか気になる。今後どのように指導医を確保するか、見通しがあれば教えて欲しい。

(事務局)

- ・県養成医が9年後、現場にどのように残るかは、ずっとこの制度の課題であり、一番大きな課題として感じるのは、養成医学生・医師が現場の魅力を感じ取れていないということ。
- ・各病院が、養成医にどのようにアプローチし、良い思い出を作り、将来帰ってこようと思ってもらうかに尽きると思う。
- ・県では、養成医に但馬の現場で良い印象を持ってもらうために様々な活動をしている。地域医療シンポジウム in ひょうごでは、養成医等の教育について議論している。
- ・専門医プログラムは、全県プログラムとして、内科系が完成しており、その他の科は今後調整して作っていく予定。いずれも義務年限の9年間で終わるプログラムになる。

(部会員)

- ・「医療従事者の確保」に書かれている中で、「病院間連携による総合診療専門医養成プログラムに基づく専門医の育成」とあるが、内科等他の科の先生方の育成も含めた文言としたほうがよい。

(部会員)

- ・医師確保に、寄附講座などそれに類した政策を、2～3本立てやればよいと思う。

(事務局)

- ・圏域計画案の中に記載する、「人材確保や研修体制の一元化の検討」との表現について、意見をいただきたい。
- ・周産期医療について、「但馬圏域で将来にわたり安心・安全な周産期医療体制を維持していくために……協議の場を設置」と記載するところについて意見をいただきたい。

(連絡会議構成員)

- ・一元化はどういうことを指すのか。地域医療連携推進法人を指すとなると言い過ぎかなと思う。但馬は公立病院が主体であり、住民の意見、構成市町の意見を考慮すると難しい。
- ・しかし、但馬の各病院が連携しないと、それぞれの病院が成り

	<p>立たないのは事実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療について、具体的施策はよいが、現状と課題の認識については、各市町が議論して現在の周産期センターが出来た中で、「さらなる集約化・機能分化」とあるのは何を指すのか。 ・分娩数が減少しているから集約化するのではなく、安心して分娩出来る地域の医療を作るという形にしないといけない。 (連絡会議構成員) ・この表現だと、集約して1つになるとなれば、住民は心配する。例えば集約化した上で、診療は他市に開設するとか、派遣するという文面が入らないと、地域の方は非常に心配される。 (事務局) ・一部の委員の意見だったが、一元化については、当面「更なる連携を推進する」等の表現に落とすこととする。 ・周産期については、表現不足の部分を修正し、産科診療科が各地域で受けられるような体制も含めた集約化と機能分化ということを書き加えたい。
<p>協議が調った事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議意見を踏まえ、但馬圏域重点推進方策(案)を加筆・修正し、田中部会長に内容の確認を受けた後、2月末に現時点の事務局(案)として医務課に提出することで、了承を得た。
<p>次回以降の予定</p>	<p>平成30年5月24日予定 但馬圏域健康福祉推進協議会医療部会兼但馬圏域地域医療構想調整会議と但馬圏域医療機関等連絡会議との合同開催とする。</p>

但馬圏域健康福祉推進協議会医療部会(地域医療構想但馬圏域調整会議)			
区分	但馬		
	所属	職名	氏名
医師会	豊岡市医師会	会長	田中 洋
医師会	美方郡医師会	会長	浜辺 茂樹
医師会	養父市医師会	副会長	枚田 一広
医師会	朝来市医師会	会長	足立 秀
歯科医師会	豊岡市歯科医師会	会長	武田 憲明
歯科医師会	美方郡歯科医師会	副会長	中田 和明
歯科医師会	南但歯科医師会	専務理事	砂治 國隆
薬剤師会	兵庫県薬剤師会	但馬支部長	守本 典利
看護協会等	兵庫県看護協会	但馬支部地区理事	高階 優子
医療機関	公立豊岡病院	病院長	三輪 聡一
医療機関	公立八鹿病院	病院長	後藤 葉一
消防	豊岡市消防本部	消防長	田邊 光之
福祉・住民団体	但馬ブロック民生委員児童委員連絡会	会長	日下部 謙一
医療保険者	全国健康保険協会兵庫支部	総務グループ長	迫田 佐保里
行政	豊岡市	健康福祉部長	久保川 伸幸
行政	養父市	健康福祉部長	小畑 美由紀
行政	朝来市	健康福祉部長	小谷 則彰
行政	香美町	健康課長	古家 亮
行政	新温泉町	健康福祉課長	森本 彰人
保健所	豊岡健康福祉事務所	所長	柳 尚夫
保健所	朝来健康福祉事務所	所長	長江 利幸
※任期:平成29年4月1日～平成32年3月31日			21